

当館が認知した主な犯罪の事例（4 月～6 月）

以下は、当館が認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）の事例です。

1. スリ、置き引きの被害

【事例 1】

デュッセルドルフで開催されるメッセに参加するために当地入り。宿泊先のブッパータールからデュッセルドルフに向かうために電車に乗り込んだ際、引いていたスーツケースとその上にのせていた鞆に誰かがぶつかる感覚があったため振り返ったところ、外国人女性が自分（被害者）の鞆の上にストールを掛けて隠しながら中を物色していた。女は財布やパスポート等が入ったポーチを抜き取って電車出発直前にそのまま逃走した。

※ 大きな「メッセ」がある時は、出張者、来場者の動きに合わせてスリも流入してくると言われています。改札で仕切られている日本の駅と異なり、ドイツはスリ犯が駅構内、電車内まで簡単に入ります！注意して下さい。

【事例 2】

夫婦でヨーロッパを旅行中、オランダ・アムステルダムから高速列車に乗ってドイツに移動。乗車後すぐに検札があったので、頭上に置いていた自分のリュックからチケットを取り出した。その際、棚に十分スペースがあるにもかかわらず、自分のリュックに密着して誰かの黒色上着が置いてあった。ユトレヒト駅を過ぎたところでもう一度自分のリュックを確認したら、誰かの上着と共に自分のリュックもなくなっていた。

※ 自分の所持品に何か変わったことが発生したら（ぶつかられる、汚れている、位置がずれる）十分に警戒して下さい。犯人にねらわれている可能性があります！

【事例 3】

一人旅でケルンのドミトリーに泊まり、地上階のバーで深夜まで飲んでいた。複数人で泊まるタイプの部屋に荷物を全て置いておくことがはばかれたことから、貴重品は肩掛けバックの中に入れて身につけていたが、バックを体から外したわずかな隙に何者かから持ち去られた。

【事例 4】

日本からデュッセルドルフにある関連企業に出張中、出張者及び関連企業の社員らで混み合う電車に乗った。貴重品は肩掛けバックに入れて肌身離さず持っていたが、途中、いつのまにか少しだけチャックが開いていることに気がつき、中身を確認したところ財布とパスポートが盗まれていた。

【事例 5】

ミュンスターで開催の大きな野外イベントに参加。出演者らで野外の一角に荷物をまとめて置いていたところ、20人くらいで置いていた荷物のうちの数個がいつの間にか盗まれていた。同所周辺は、関係者しか行き来しないように見えたが、柵等で囲われてはいなかった。

2. 車上ねらい

デュッセルドルフで開催されるメッセに参加するために当地入り。顧客と夕食をとるためにアルトシュタットにレンタカーを駐車。その際、全員の荷物をセダンのトランクに入れ、リモコンを使ってロックして車を離れた。

食事を終えて車に戻ったところ、車内が荒らされており、トランクの荷物が全てなくなっていた。車両に破壊痕跡はなし。

※ リモコンのロックを電磁的に妨害する手口が確認されています（鍵をかけたつもりが、実際には鍵がかかっていない）。車を離れる前には、実際に施錠がされているかドアノブを触って確認してください。他方で、ロックされた車両を電磁的に不正解錠する手口も確認されています。車は金庫ではありませんので、貴重品を置きっぱなしにしないでください。車を降りる際の様子（貴重品をトランクにしまい直す様子等）は犯人に見られています！

3. 侵入盗（自宅以外）

デュッセルドルフにあるスポーツジムの会員になり、ロッカーに貴重品等をしまっておいたところ、トレーニングから戻ったらロッカーの中身がなくなっていた。破壊痕跡はなし。カードキーがうまく作動しなかったのか、何者かが不正に解錠したのかは不明。

※ 会員制の施設（誰でも出入りできるわけではない場所）でも盗難事件は発生しています。盗難被害を完全に防ぐことは難しいですが、少なくとも、ロッカーなどを使用する際には、施錠後に鍵が本当にかかっているかはよく確認するようにしてください。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに110番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。（了）